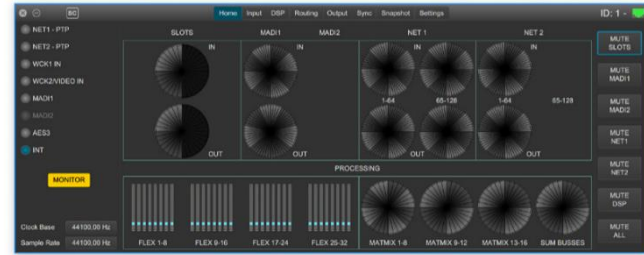


PRODIGY.MP クイックマニュアル

FW ごとの追加機能と基本的使用法のご案内です。追加機能は、ページ下部に追記しております。

PRODIGY.MP を全て設定するには、globcon (アプリケーション)が必要です。

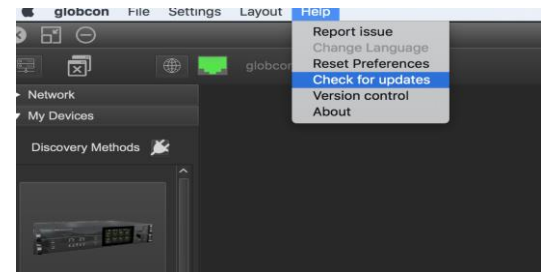
<http://www.globcon.pro/> より、ソフトウェアをダウンロードしてください。



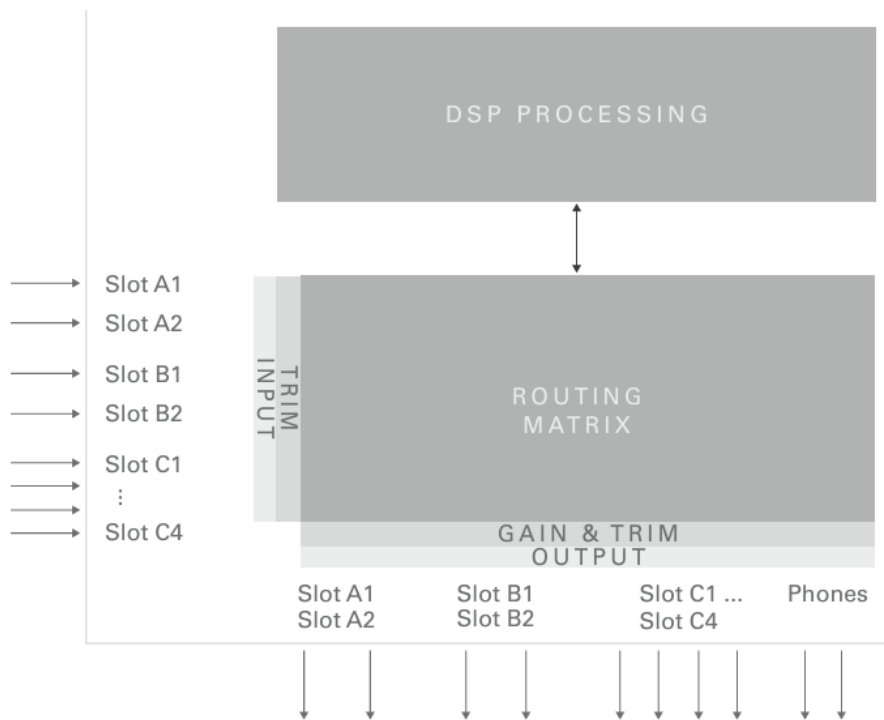
取扱説明書は globcon > Help > Documenation とチュートリアルビデオが、同サイトに用意されております。

©globcon / アップデートの確認

上部 Help メニューから、「Check for update」をクリックして最新版を確認、最新版では無い場合、「Update & Restart」をクリックして更新してください。



ルーティングは DSP 部分と入出力部分で分かれています。



Slots:

- Slot A - Audio Network / Multi-port MADI Modules
- Slot B - Single-port MADI Modules
- Slot C - Converter Modules

設置方法

1. 梱包材を開封し、中身が完全で破損していないことを確認してください。
2. デバイスを4本のネジで19"フレームに固定するか、滑りにくい水平面に置きます。



冷却のため、本機に十分な空気循環があることを確認してください。ファンの吹き出し口やデバイス側面のスロットをふさがない、保護グリッドに物を入れてファンを塞がないでください！

3. 別途納品されたモジュールの取り付けについては、モジュールのパッケージに同梱されているマニュアルの指示に従ってください。



1.2.3 それぞれのスロットに対応したモジュールを装着します。

装着の際、本体の電源は切ってください。

4. 取り付けしたモジュールと MADI、AES3、アナログ信号など信号ケーブルを接続します。
5. ネットワーク経路でデバイスを制御するために、MANAGEMENT ソケットの PORT1,2,3 にネットワークケーブルを接続します。

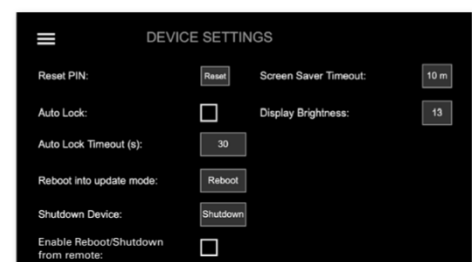


付属の電源コードを使用して、電源と接続します。電源コードにはセルフロック機能がついており接続を解除するには、赤いリリース機能を解除します。

7. 電源スイッチをオンにします：
フロントパネルのディスプレイを確認する。

*注意：適切なファイル操作を保証するために、電源を切る前に、まずシステムをシャットダウンする必要があります。

本体 LCD よりアクセス可能 > DEVICE SETTING



8. ブラウザーのナビゲーションバーに `http://<IP アドレス>` (デフォルト IP : DHCP) と入力し、コントロールウェブサイトを開きます。I

IP アドレスはネットワークの DHCP サーバーによって割り当てられ、フロントパネルのディスプレイで確認または変更することができます。

9. globcon をコンピュータにインストールする

すべての機能にアクセスするにはこのアプリケーションが必要です。

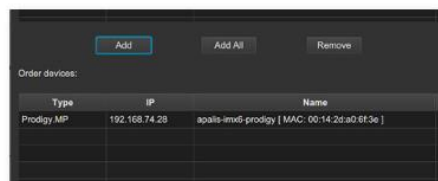
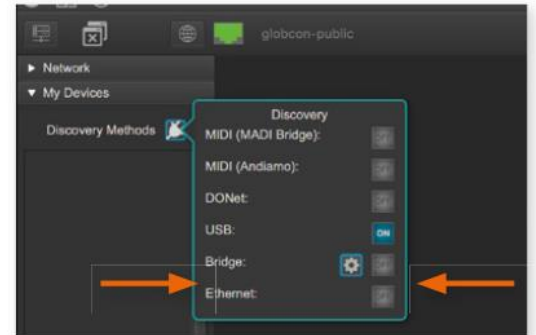
10. globcon を起動する

デバイスが接続されているネットワークのポートを選択します。

サイドバー - [My Devices] - [Discovery Methods] をクリックし、[Ethernet Discovery] を [ON] に設定する

リストからデバイスを選択し、「Add」をクリックします。

OK を選択。

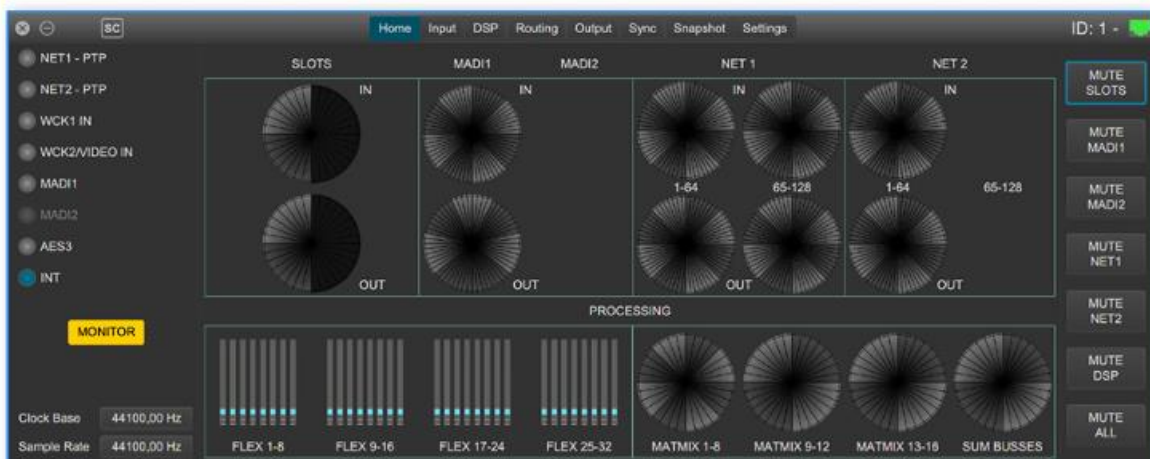


globcon の概要にデバイスが表示される デバイスの小さな表示をダブルクリックすると、コントロールが開きます。右上「RJ コネクターのマーク」が緑色になれば、通信しています。



globcon に関する詳しい情報とビデオ・チュートリアルは

www.globcon.pro にあります。



IP アドレス設定は本体の LCD でも可能です。

ホーム画面の IP アドレスをタップして設定します。

もしくは、フロントディスプレイ左上「≡」をタップ、NETWORK のボタンを押します。

デフォルトは DHCP サーバーとなっております。

マニュアルで設定する場合は、設定項目をタッチ、CONTROL のノブで数字を設定してください。SAVE を押して保存します。

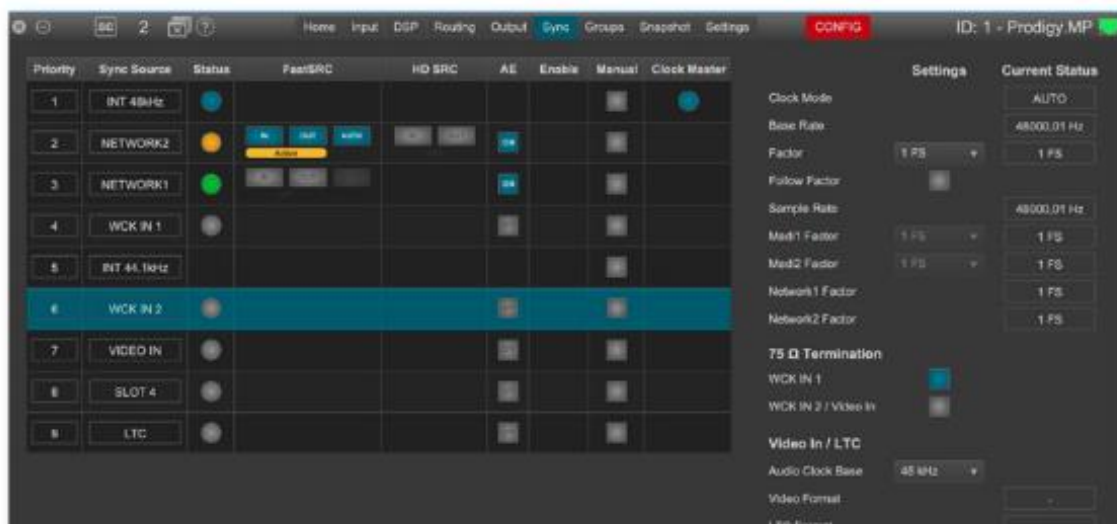


◎ CLOCK 設定

globcon の Sync の項目で、クロックの詳細設定が行えます。

優先順位の設定はクロックソースに障害が発生した場合、いくつかのプランを定義できます。

優先順位は、クリック>移動することで順番を変更します。信号が戻った時(Auto Enable /Enable)でクロックソースを元に戻すこともできます。



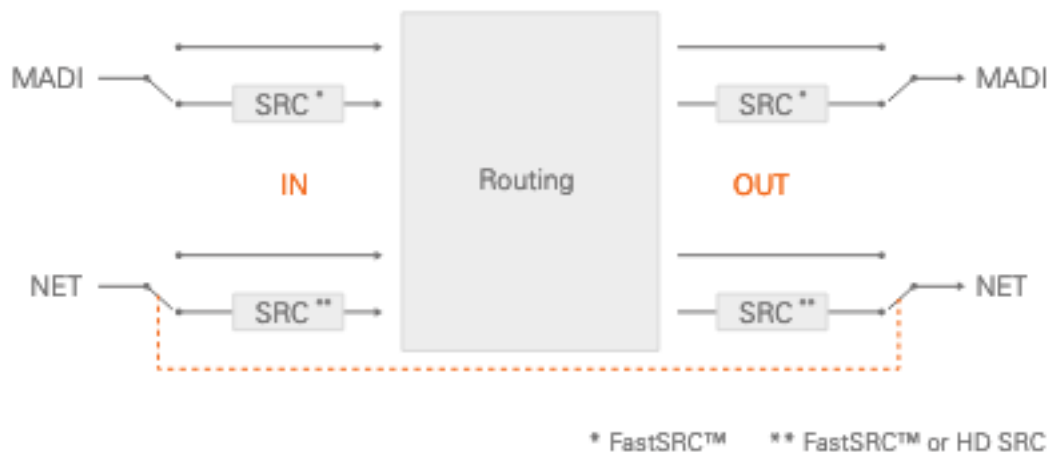
◎Fast SRC / HD SRC

低いレイテンシーのサンプルレートコンバータです。MADI I/O とネットワーク I/O で使用できます。HD SRC はオーディオネットワークモジュール(RAV.SRC.IO、Dante.SRC.IO、SG.SRC.IO)で提供される最先端のサンプルレートコンバータです。

本体の LCD、及び、 globcon の CLOCK 画面で設定できます。



* ネットワークに Fast SRC を使用する場合は、input/output、両方を ON にする必要があります。



入力がデバイスのクロックソースとして使用されている場合、FastSRC または HD SRC をアクティブにする必要も推奨もありません。

Fast SRC は、優れた音質と 0.15 ミリ秒の非常に低い遅延の高品位なサンプリングレート変換で、ライブサウンドなどの「命の恩人」的な役割です。

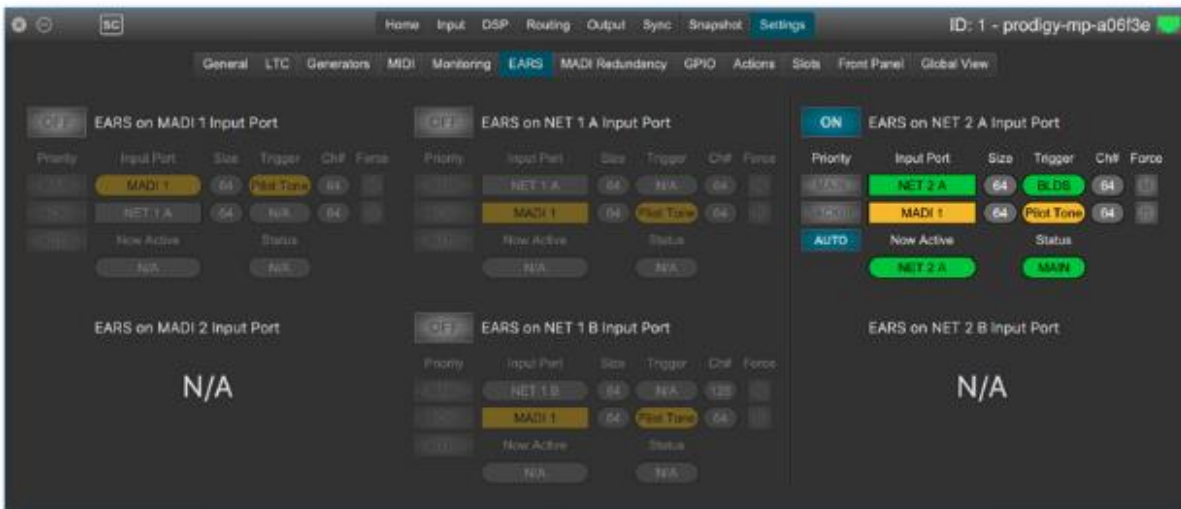
ハイエンドのサンプルレート変換には、処理能力が顕著にひつようなため、最高のオーディオ品質を得るためには、SRC 専用の RAV.SRC.IO、DANTE.SRC.IO、MADI.SRC をおすすめします。

HD SRC は最先端のサンプルレートコンバータで、レイテンシーは 1msec となります。

◎ 設定のポイント

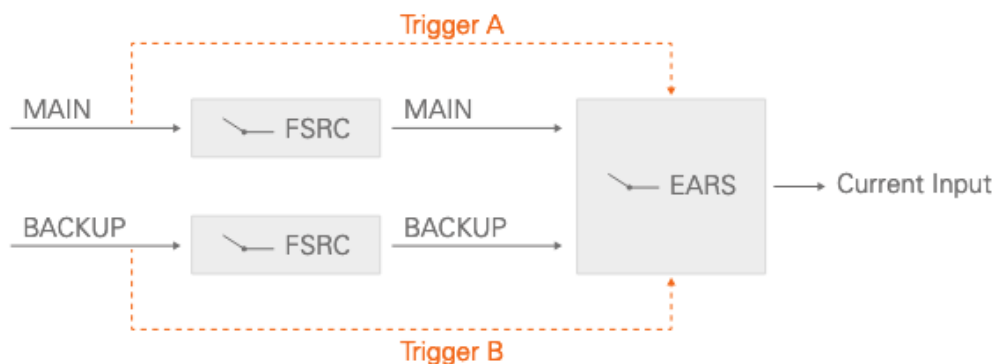
PRODIGY.MP の Routing の設定は、MP に装着されているアナログ、AES、ネットワーク IO モジュールなどの IN/OUT 用「Routing」タブと DSP にルーティングする「DSP」タブの中の「DSP Routing」があります。DSP に入力音声をアサインしたい場合は、DSP Routing にて Flex Channel や MatMix に音声を送ってください。そして DSP 処理した信号を最終的「Routing」にて任意のアウトにアサインすると処理された音声が出力されます。（ルーティング例：入力 > DSP(Flex CH/ MatMix) > 出力）

EARS -Enhanced Automatic Redundancy Switch



EARS は、Directout 独自の BLDS テクノロジーと Pilot tone (パイロットトーン)を組み合わせたスイッチング機能です。ネットワークと MADI 入力の特定のチャンネルに含まれるトリガー信号を監視します。

- BLDS = BLDS ジェネレーターで生成します(Routing タブ内で利用可能)。
- Pilot tone (パイロットトーン) = -40dBFS 以上の信号



FAST SRC の前のオリジナルサンプルレートにてモニター、EARS のロジックは、ルーティングの前で動作します。BLDS トリガーによる切替は即時(2 Sample)、パイロットトーンは 10ms でトリガー(スイッチ)されません。

* 同じ EARS ロジック内にて、異なるトリガー信号を使用することはお勧めしません。

Priorities & Priority Mode

3 つの Mode は、トリガー信号がロスした後、そのトリガー信号が戻った時の復帰後の動作を定義します。

- AUTO = トリガー障害が検出され他のポートにトリガー信号が検出された時、スイッチオーバー。
- MAIN = 両方のポートでトリガー信号が検出された場合、常に MAIN が選択される
- BACKUP = 両方のポートでトリガー信号が検出された場合、常に BACKUP が選択される。

* 同一のトリガー信号が必要です。同一でない場合、BLDS がパイロットトーンを無視します。

Force

自動切替を一時的に無効にするために、出力ソースを強制的に MAIN または BACKUP にすることができます。

Input Modes

EARS は、1FS で 64ch のチャンクで動作しています。RAV.IO のように 128ch を扱うオーディオネットワークモジュールは、NET#A と NET#B の 2 つのユニットに分割されます。

オーディオネットワークモジュールの MAIN ポートには 2 つの入力モードが用意されています。

- MODE1 - 異なるポート
- MODE2 - 前半 / 後半

Example - Device operating at 1 FS

Input	Factor	trigger signal ('Ch x')	signals available ('Size')
MADI	1FS	ch 64	ch 1 - 64
MADI	2FS	ch 32*	ch 1 - 32
MADI	4FS	ch 16*	ch 1 - 16
DANTE.IO	1FS	ch 64	ch 1 - 64
DANTE.IO	2FS	ch 32*	ch 1 - 32
DANTE.IO	4FS	ch 16*	ch 1 - 16
RAV.IO	1FS	ch 64 / 128	ch 1 - 64 / ch 65 - 128
RAV.IO	2FS	ch 32 / 64*	ch 1 - 32 / ch 33 - 64
RAV.IO	4FS	ch 16 / 32*	ch 1 - 16 / ch 17 - 32

Example - Device operating at 2 FS

Input	Factor	trigger signal ('Ch x')	signals available ('Size')
MADI	1FS	ch 64*	ch 1 - 32
MADI	2FS	ch 32	ch 1 - 32
MADI	4FS	ch 16*	ch 1 - 16
DANTE.IO	1FS	ch 64*	ch 1 - 32
DANTE.IO	2FS	ch 32	ch 1 - 32
DANTE.IO	4FS	ch 16*	ch 1 - 16
RAV.IO	1FS	ch 64 / 128*	ch 1 - 32 / ch 33 - 64
RAV.IO	2FS	ch 32 / 64	ch 1 - 32 / ch 33 - 64
RAV.IO	4FS	ch 16 / 32*	ch 1 - 16 / ch 17 - 32

Example - 1 FS, NET 1 = DANTE.IO, NET 2 = RAV.IO

Module	MODE	MAIN	BACKUP
DANTE.IO	1	Dante (ch 1 - 64)	MADI 1 (ch 1 - 64) MADI 2 (ch 1 - 64) NET 1A (ch 1 - 64) NET 2B (ch 1 - 64)
DANTE.IO	2	Dante (ch 1 - 32)	Dante (ch 33 - 64)
RAV.IO [A]	1	RAVENNA (ch 1 - 64)	MADI 1 (ch 1 - 64) MADI 2 (ch 1 - 64) NET 1A (ch 1 - 64) NET 2B (ch 1 - 64)
RAV.IO [B]	1	RAVENNA (ch 65 - 128)	MADI 1 (ch 1 - 64) MADI 2 (ch 1 - 64) NET 1A (ch 1 - 64) NET 2A (ch 1 - 64)
RAV.IO [A]	2	RAVENNA (ch 1 - 32)	RAVENNA (ch 33 - 64)
RAV.IO [B]	2	n.a.	n.a.

MODE 2 はオーディオネットワークモジュールの最初の 64ch を、32ch ずつ 2 つのチャンクに分割します。
各モジュールのチャンネル数は関係なくなります。

*MADI Redundancy を有効にした場合、EARS の MADI ポートは無効になります。

Input Manager

インプットマネージャーは最大 6 つの異なる物理的な入力を優先順位リストに従い信号ソースを定義します
この信号ソースは、ルーティングにパッチできます。もし、物理入力が失敗すると、優先順位リストの次の入



力が信号ソースとして使用されます。

- ・ 32 インプットマネージャー
- ・ インプットマネージャーはステレオリンク可能
- ・ ソースを移動して、優先順位を変更
- ・ 次のソースに切り替えるための基準

レベルの一貫性/Coherence の不一致(C)

調整したスレッシュホルトレベルを下回るレベル(Signal) > Silence Detection (無音検出)

- ・ 自動有効化(AE)を使用すると、自動切替後、その信号ソースに戻ります。
- ・ 有効(E)は、戻すのに手動で操作が必要です。
- ・ 手動選択(M)は、自動切り替えを無効にします。
- ・ 有効なソースは、青い●にて示されます(A)



Coherence (C)(一貫性)

このアルゴリズムは、それぞれの物理的なソースの信号レベルを監視します。そのレベルとは、特定期間にわたってほかのソースと比較されます。もしレベルがソースと一致する場合、それは、「確実/有効」とみなされます。

- レベルは一貫性の一致、適切な切り替えを確実にするために、Trim でトリミングできます。
- Auto-Time は一番優先順位の高いソース(つまり「1」)を参照して、全てを「低い」ソースにします。
- Manual (手動)選択は、トリミング中にすべてのソースをチェックできます。

◎Build 11 & globcon Version 1.5.0 より以下の機能が追加されています。

- オペレーションモード：“Show”と“Configuration”モード (globcon から設定)
- Snapshot: 持続ストレージとフロントパネルからのリコール
- ライセンスオプション：リモートコントロール > EMBER+
- ライセンスオプション：リモートコントロール > OSC

Show モード

デバイスに一貫性を保ちながら、スナップショットを呼び出して安全なオペレーションを行います。

Configuration モード

デバイスを Show モード用に準備、Configuration Setting を変更をできます。

Configuration Setting は「透過的な」スナップショットの PRODIGY のデータ構成の一部です。つまり、Show モードでスナップショット(Snapshot)が呼び出されても、変更されません。

*注意

このオペレーションモードはデバイスのステータスです。globcon のステータスではありません。
デバイス起動時には、「Show モード」が常にアクティブになります。

◎Configuration Setting

Flex Channel Style (IN/OUT)

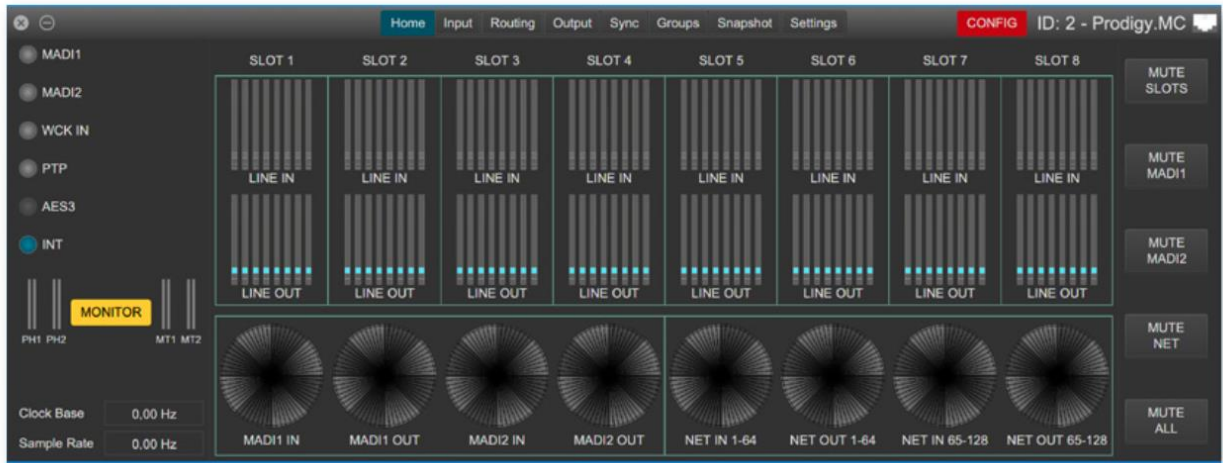
MatMix Bus configuration (Mono/Stereo)

Plugin insert (routing/position, not the plugins parameters which are recalled via snapshot)

HW Insert (routing/position)

Channel Link (mute, fader, plugins)

Group membership



Configuration モードと Show モードの切替えは、globcon の PRODIGY デバイスの Window 内にあります

Snapshot

スナップショットは、2つの異なるリストに分けられます。

上段：Configuration モードで設定の変更があり「最近」非準拠になったスナップショット。

下段：以前からの非準拠のスナップショットもふくまれています。

非準拠のスナップショットはリスト化されますが、Show モードに戻ると、リコールすることができなくなります。(ロックされたスナップショットは変更や適合できません)

#	Name	Note	Author
1	Snapshot #1	Initial Data - 44.1 kHz	christian
2	Snapshot #2	Initial Data - 48 kHz	christian
3	Snapshot #3	Coffee break	christian

Snapshot-フロントパネル

globcon で作成された各スナップショットは、デバイスに保存されます。スナップショットは globcon プロジェクト内に保存されるため、「Push」機能を介してデバイスの構成も可能です。
なお、準備しているスナップショットのみがリスト化され、呼び出し可能です。

◎Build 12 & globcon Version 1.6.0 より以下の機能が追加されています。

- ・ライセンスマネージメント
- ・アップデートモード
- ・Shutdown / reboot into update mode
- ・ネットワークモジュール (RAV.DANTE)の SRC モジュール対応
- ・Ember+ 改善

アップデートプロセス

現在のバージョンからアップデートするには、2つのステップが必要です。

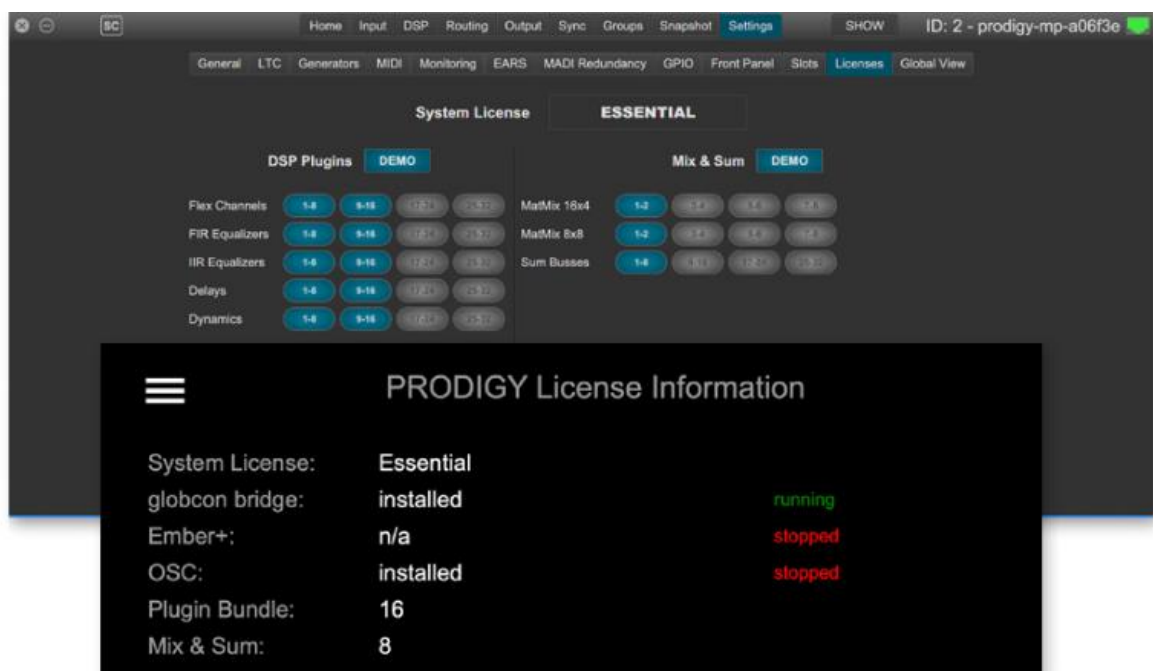
1. 'update mode 'to version 1.3.2 にアップデート
2. System Build 12 にアップデート

どちらも 電源の再起動が必要です。

ライセンスマネージメント

拡張性を高めるために、PRODIGY シリーズは異なるシステムライセンス(Essential、Advanced、Unlimited)で導入できます。

また、追加のシングルライセンスはオンライン購入可能です(* 現在準備中)。

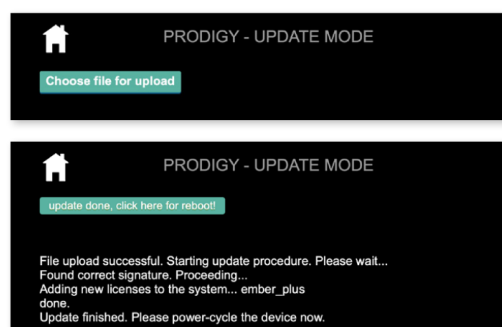
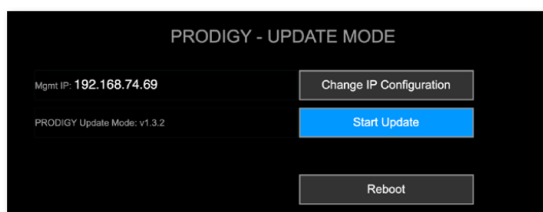


2021年4月以前に発売されたすべてのデバイスは、現在の機能を維持するために「Advanced」を取得します。

ライセンスステータスは、フロント、ブラウザ、globconで確認できます。

Update Mode v 1.3.2 (System Build12が必要です。)

■ System Build12 とライセンスのために、Update Mode v1.3.2 が必要です。

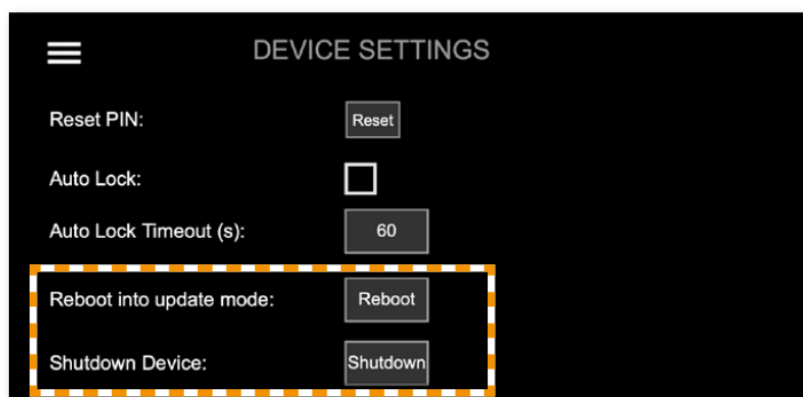


詳しいアップデート方法は巻末に記載します。

■ Shutdown(シャットダウン) /Reboot into update mode(アップデートモード)

フロントパネル 「≡」 > SETTING > DEVICE SETTING

ファイルを正しく操作するには、デバイスを OFF にする前に、オペレーションシステムをシャットダウンさせる必要があります。デバイスを更新するには、フロントパネルから更新モードを再起動できます。(立ち上がるまで少し時間がかかります。)



両方のコマンドは、フロントパネルで機能を ON にしたら、globcon、もしくは Web UI から可能になりますが、管理ネットワークに自由にアクセスできる場合、セキュリティ上のリスクがありますのでデフォルトでは無効になっています。

Enable Reboot/Shutdown from remote:

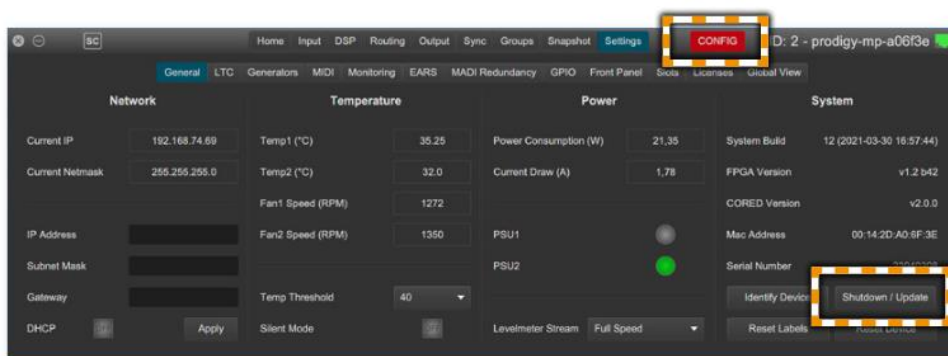
globcon



Configuration Mode



Setting Genera



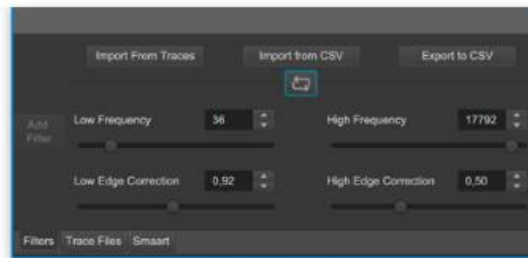
◎Build 13 & globcon Version 1.7.0 より以下の機能が追加されています。

- カスタムフィルター(FIR Filter)
- ラウドネスメーター
- インプットマネージャー - Silence 検知モード
- FastSRC - Automatic Bypass オプション
- ソロマネージャー

Custom Filter

カスタムフィルターは、スピーカーシステムをチューニングする前にイコライズするのに役立ちます。

測定された伝達関数を適用して、最大 800 ステップと調整可能な Smoothing を備えた、カスタムフィルタを作成します。Smaart プラ府尹を使用して、伝達関数を測定したり、サードパーティの測定システムから、測定値をインポートできます。



カスタムフィルターはひとつ以上の測定により作成されます。

コントリビューションは手動で変更、FIR (レイヤー 1-3、GROUPS)や他のフィルターは、さらなるチューニングに使用できるはずですが。

チュートリアルビデオが用意されています。 <https://vimeo.com/directout/prodigy-custom-filter>

Loudness (ラウドネスメーター) > Unlimited に搭載

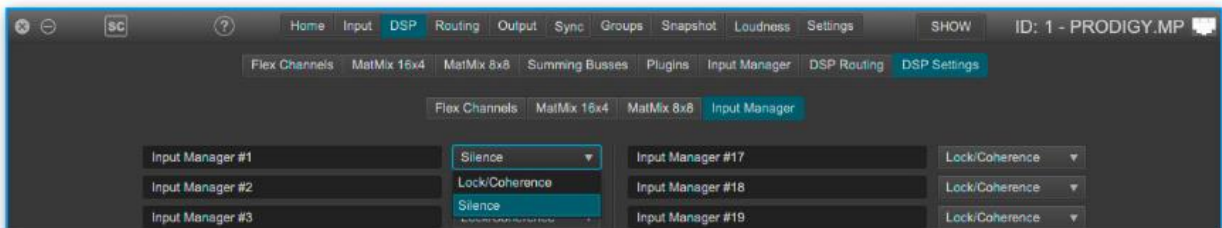


ITU-R BS.1770-4 に準拠した、最大 8 チャンネルのアサイン可能なラウドネスメーター
信号源は、物理的な入力、もしくは、DSP アウト(Flex Channel、Matrix、Summing Bus)を設定でき、最大測定時間は 4 時間です。

動作モードは、モニターセットアップを設定できます。
ラウドネスメーターは Unlimited 以外のモデルは、オプションになります。

Input Manager - Silence Detection

Build 13 では、Silence detection を追加しました。DSP Setting 設定します。

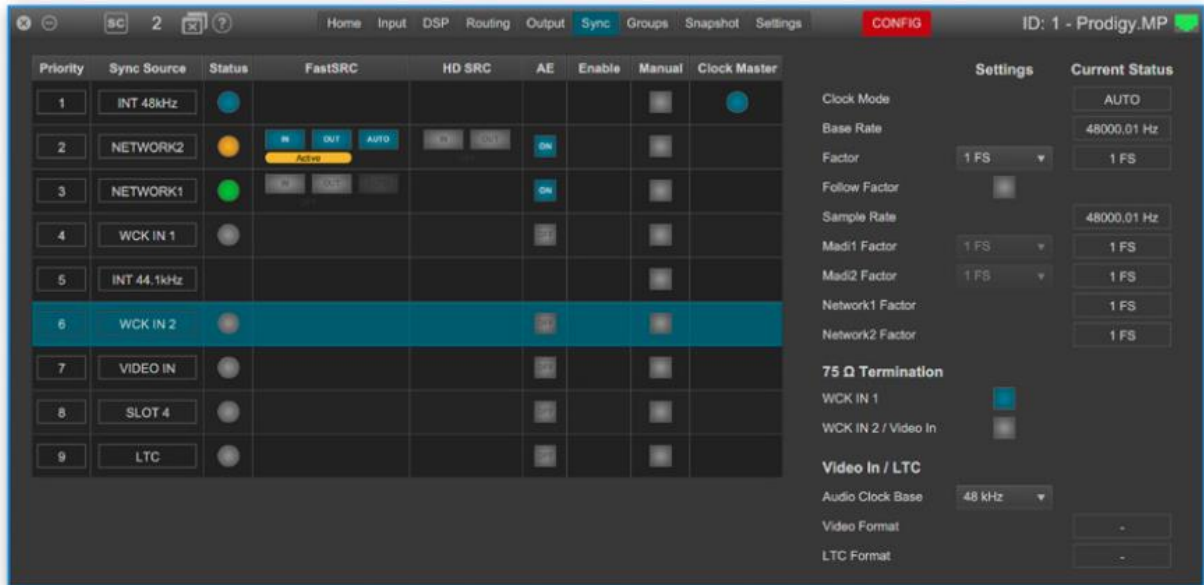


Input Manager を「Silence」に設定すると、入力信号の測定レベルが Threshold レベルより下回り、Failure より長い時間になると、優先順位リストの次の物理入力に切り替えます。

Enable は、信号が back/戻る時、物理入力に戻るまで前の待機時間を定義します。



FastSRC Automatic Bypass



AUTO を有効にすると、入力信号の同期状態(システムクロックと同期しているか)に応じて、サンプルレート変換が適用されます。

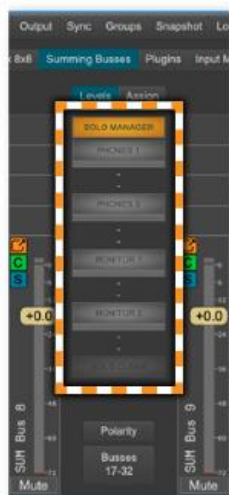
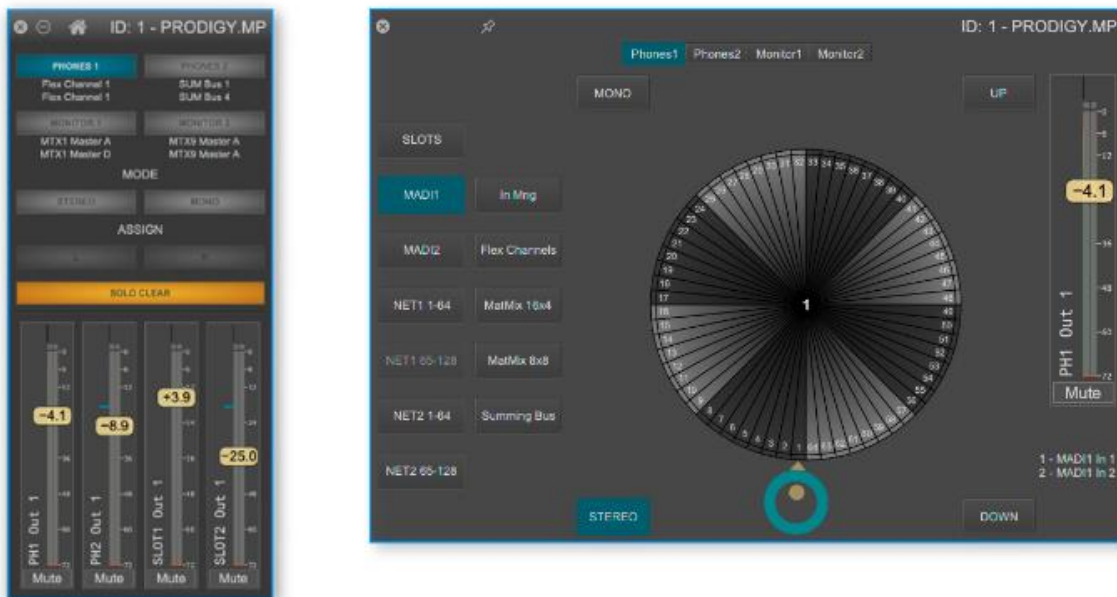
Auto ON / Fast SRC ON の場合、シンクをロスしたら、SRC が有効になるという機能です。

HR SRC(RAV.SRC.IO、 DANTE.SRC.IO)がアクティブの場合、Fast SRC の Automatic Bypass は無効になります。

Solo Manager -Monitoring DSP

DSP 出力(Flex Channels、 Matrix、 Summing Busses)のモニタリングが導入されました。

Home タブ > “Monitor”ウィンドウ。物理的な入力と DSP 出力をモニタリングできます。



Solo Manager は 'Flex Channel' と 'Summing Busses' からアクセスできます。

出力先(PHONE 1/2、Monitor 1/2 0)を有効 >ブルーボタン

MODE > (ステレオ/モノ)、ASSIGN Left / Right もしくは両方などが操作でき、

チャンネルストリップをクリックして、ソースをアサインします。

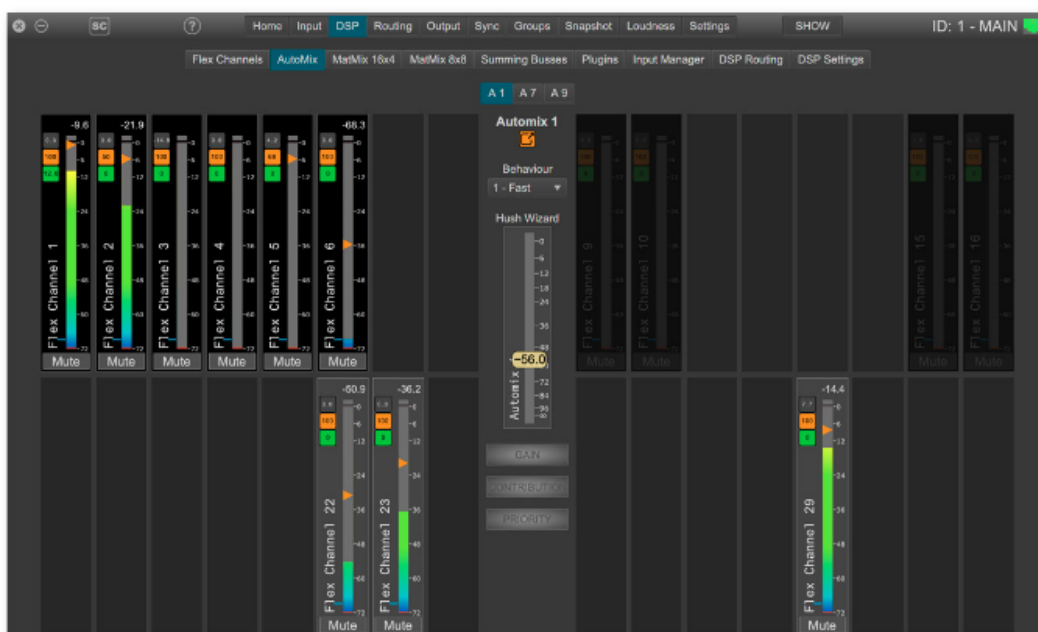
◎Build 14 & globcon Version 1.8.0 より以下の機能が追加されています。

- Auto Mix (別売ライセンス購入が必要です。)
- Mirror モード
- ラウドネスメーター(別売ライセンス購入が必要です。)
- IIR プラグイン 6 フィルター (別売ライセンスが必要です。)
- スロットラベル

Auto Mix (ライセンス商品)

自動ミキシングにより、明瞭度の向上、全体的なノイズフロアが減少する可能性があります。

AutoMix グループに属する Flex チャンネルのゲイン数値を自動的に設定します。最大 32 Flex チャンネルを 16 の Auto Mix のグループのひとつに割り当て可能です。



アルゴリズムの結果は、いくつかのパラメータにより調整されます。

- ・ Gain - Flex チャンネルのゲインレベル、キャリブレーションに依存しない(Offset)
- ・ Contribution - キャリブレーションの結果
- ・ Priority - レベルに優先を追加
- ・ Behavior - アルゴリズムによるレベル調整の速度
- ・ Hush Wizard - ノイズ対レベル

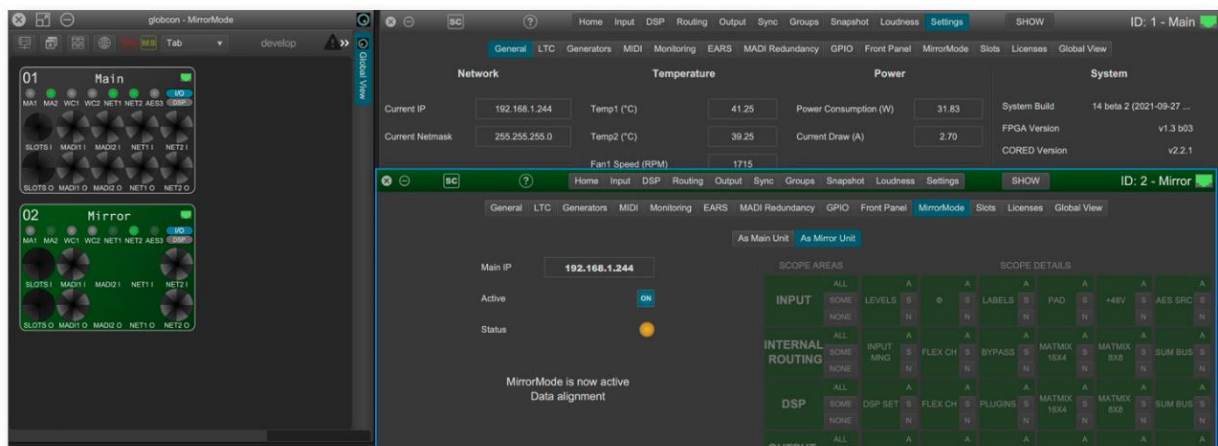
Summing バスと Mat Mix を利用すれば、処理された Flex チャンネルを合わせ AutoMix グループに出力できます。

詳しくは以下のチュートリアルビデオをご覧ください。

<https://vimeo.com/directout/prodigy-automix>

MirrorMode

メインユニットとミラーユニットで定義したパラメータを提携(Alignment)させます。ミラーユニットのパラメ



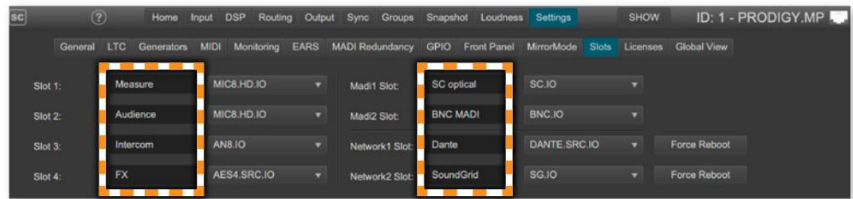
ータは、ユーザーで定義できる Mirror Scope に基づいて調整されます。

- ・複数のミラーユニットは可能
- ・ディジーチェーンのミラーユニットも可能(ミラーユニットが、他のミラーユニットのメインユニットとして動作する)
- ・双方向の提携(Alignment)も可能ですが、おすすめしません。

詳しくは、以下のビデオをご覧ください。 <https://vimeo.com/directout/prodigy-mirrormode>

スロットラベル (Setting > Slot)

Routing > Matrix ルーティングマトリクス
の Labels を「User」に切り替えると反映
されます。



©Build 16 & globcon Version 1.9.0 より以下の機能が追加されています。

Dynamics Plugin は、以下の4つのモードが提供されました。

- Compressor - Gate
- Limiter - Gate
- Upward & Downward Compressor
- SoftGate

SoftGate

従来とは異なるアプローチです。メインパスのゲインを制御するのではなく、せかんたりバスのげいんを調整し、元のパスはクリーンなままにします。

このアプローチにより、スレッシュホールド付近での「よりソフト」な動作を得られます。

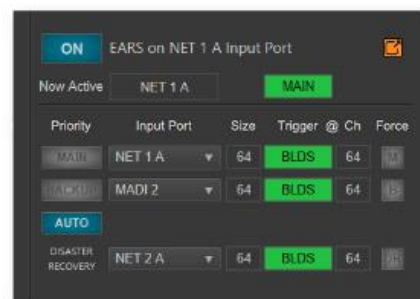
Softness の数値を 0 にすると、ゲートを完全に閉じた状態になります。数値を高くすると元の信号の一部が通過します。

騒々しい環境でのボーカル信号のノイズを除去するのに非常に効果的な方法です。

詳しい説明は、globcon の Help にて。

EARS に Disaster Recovery モードが追加されました。

もし、MAIN と BACKUP に障害が発生すると、DISASTER RECOVERY がトリガーとなります。



MADI I/O High Speed Mode を追加。

Input > Input Formats で変更可能

Mode	1 FS	2 FS	4 FS
High Speed	48 kFrame	96 kFrame	192 kFrame
Legacy	48 kFrame	S/MUX 2	S/MUX 4

詳しい追加機能の情報は以下の [Info PRODIGY.MP Supplemental](#) (英文マニュアル)をご確認ください。

DirectOut ホームページ、PRODIGY.MP の製品ページ、DOWNLOADS にタブよりダウンロード頂けます。

<https://www.directout.eu/en/products/prodigymp/>

■ライセンス(Unlimited に搭載、オプションで購入)

それぞれ、30 分のデモモードを搭載しています。



Ember +

- デバイスの包括的な監視
- ルーティングマトリクス(チャンネルラベル)
- input gain / pad/ P48、
- クロックコンフィグレーション/ ステータス、
- Flex Channel と Sum Bus : gain、mute、Polarity

EMBER+ service: <MGMT IP address>, Port 900

OSC (open sound control)

サードパーティのソフト/ハードウェアを介して、ネイティブコントロールを提供します。

それぞれの OSC アクションは、globecon を介して定義します。

参考ビデオ > <https://vimeo.com/directout/oscprogramming>

■Firmware アップデート方法/ライセンスインストール方法

システムライセンスを更新する、オプションのライセンスをインストールするには、Update モードで再起動する必要があります。

build12 以前のファームウェアの場合、まずは、Build12 にアップデートする必要がありますので、以下を参照にアップデートしてください。

build12 以前のファームウェアの場合、まず、build12 にアップデートする必要があります。

アップデートは以下よりダウンロードできます。

<https://www.directout.eu/en/support/updates/>

まず、下記、メソッド A にてアップデートモードに入ります。

'1_PRODIGY_Update_Mode_v1_3_2_20210419.pdgy' を選択し、アップデートを行ってください。

自動的に再起動します。本体の電源を切ってください。

次に再度、メソッド A にてアップデートモードに入ります。

'2_PRODIGY_MP_System_Update_b12_20210416.pdgy' を選択、アップデートを行ってください。

アップデートが完了したら、電源を入れ直し、INFO - PRODIGY License Info で build を確認できます。

詳しい手順は、下記 4 以降を参照ください。

▼ build12 以降

* デバイスの設定(Save Preset)のバックアップを強くお勧めいたします。

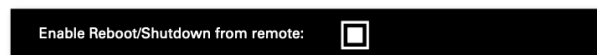
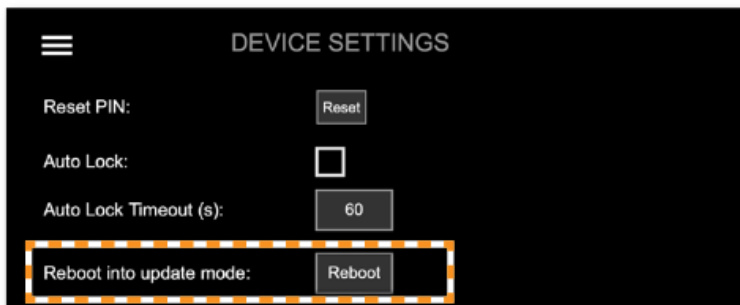
1. DirectOut web ページ (www.directout.eu) PRODIGY.MC の製品ページより、イメージアーカイブをダウンロードしてください。 (- System Update Build xx)
2. ダウンロードしたイメージファイルを解凍します。
→prodigy_mc_system_update_<build>_<date>.pdgy
3. Update モードを起動します。

メソッド A

- フロントパネルの HOME ボタンを押しながら、電源を入れます。
- DirectOut のロゴが消えたら、ボタンを離してください。

メソッド B (System build 12 以降)

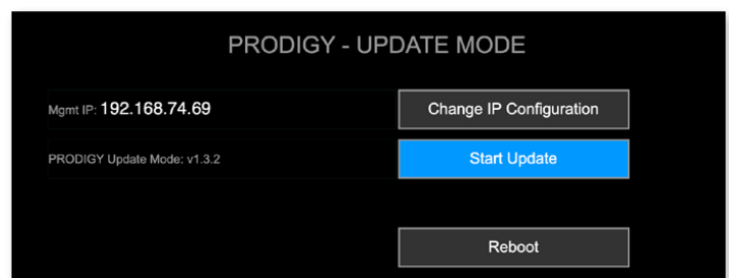
- フロントパネル 「 ≡ 」 > SETTING > DEVICE SETTING
Reboot into update mode > Reboot をクリック (立ち上がるまで少し時間がかかります。)



このコマンドは、フロントパネルで機能を ON にしたら、globcon、もしくは Web UI から可能になりますが、管理ネットワークに自由にアクセスできる場合、セキュリティ上のリスクがありますのでデフォルトでは無効になっています。*メソッド B でうまく立ち上がらない場合、メソッド A で再起動してください。

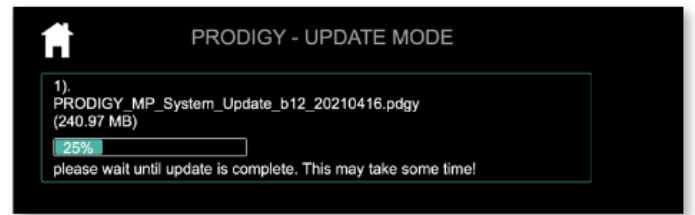
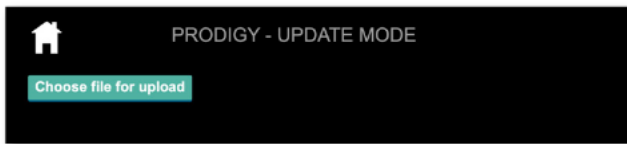
4. Web ブラウザ((Mozilla Firefox もしくは Google Chrome)で、デバイスの IP アドレスを入力します。

コントロールのネットワーク設定が、DHCP に設定されている場合、更新モードでの IP アドレスは異なる場合がございます。同じにしたければ、更新モードで再起動の前に手動で構成します。



5. Start Update をクリックします。

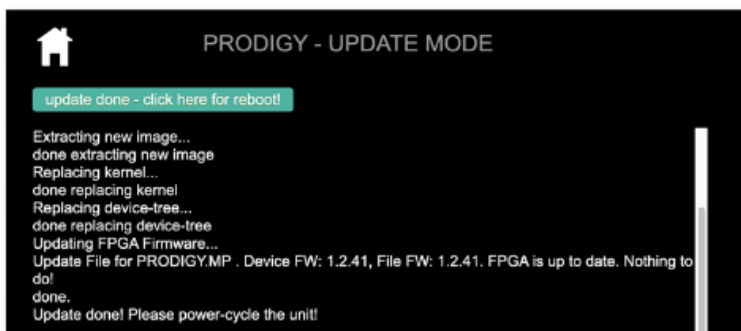
6. Choose File for upload でダウンロードしたファ



イルを選び、アップデートします。

アップデートには数分かかる場合があります。

アップデートが完了すると、再起動のメッセージが表示されます。



7. Reboot !

メッセージが現れたら、デバイスの電源を入れ直してください。

システムアップデートではなく、オプションのライセンスを複数インストールする場合、デバイスを再起動せず、複数のライセンスをインストールするには、インストールが正常に完了した後、「HOME」アイコンをクリックします。



8. SETTINGS DEVICE INFO をチェックし、バージョンを確認できます。

Tip

Choose file for upload をクリックし、ダウンロードした (*.pdgy) ファイルを選択した際、もし、pdgy ファイルが選択できなければ、左下の「オプション」をクリック、ファイル形式を 「すべてのファイルを」にして pdgy ファイルを開いてください

